

令和 7 年度 県立境特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆一人一人が自ら行い自ら学び、できる喜びを感じることができる学校 「かがやく学校」 ◆学んだことを周りの人に伝え合い、分かち合うことができる学校 「ひびきあう学校」 ◆学校と地域が助け合い、認め合い、多くの人と繋がり合える学校 「つながる学校」		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な環境整備及び防災学習、訓練を実施し、安心安全な学校作りに向けて意識を向上させることができた。 ○児童生徒の食の安全や職員の健康に関する研修を実施し、安全に日々の指導を行うことができた。 ○定期的に研修を実施するなど、年間を通して教職員全体のコンプライアンス意識の向上に努めることができた。 	I 安全安心な学校作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の心身の健康を守る保健安全、食育指導の実践 ②施設・設備の点検改修による安全安心な環境作り ③感染症対策による持続可能な学習環境作り ④P T Aや地域と連携した大災害時の防災体制の確立 	C
<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育体制の充実にむけて、特別支援教育地域連携体制構築事業を継続し、学校公開等や研修会を実施し、特別支援学校の機能強化を図った。 ○Google Workspace を活用し、効果的な情報伝達や集約や会議を実施することができた。 ○育成を目指す資質能力の般化にむけ、学校全体で計画的に授業改善を実施できた。 	II ニーズに応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な ICT 機器を活用としたアクティブラーニングの実践 ②自立と社会参加に向けた児童生徒の個別に応じた指導実践 ③発達段階に応じた教育課程による小中高一貫性のある実践 ④体験型学習やデュアルシステム型実習の積極的活用 	B
<ul style="list-style-type: none"> ○各部の教育課程を改善し、評価しながら実践した。 ○ICT の効果的な活用を推進し、授業改善研修等での好事例の収集と職員間の共有を実施し、授業改善につながった。 	III 教員の意識向上のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①個人研修の充実を図り、特別支援教育の専門性を高める支援の充実 ②ICT環境の充実、教材データ化による働き方改革の推進と指導の充実 ③児童生徒同士の健康や安全を守る ④教員のコンプライアンス意識を高める 	A
<ul style="list-style-type: none"> ●保護者や地域の方々と連携した安全管理体制の充実。 ●事故防止のため、ヒヤリハット事例の集約と共有の増加。 ●就学前機関への広報活動の更なる充実。 ●教材データベースの活用など授業準備の効率化への工夫。 ●教科横断的、長期的な展望での指導の実践。 ●保護者への十分な説明も含め、高等部生徒の BYOD 端末の整備の増進。 	IV 地域の連携とセンター的機能推進	<ul style="list-style-type: none"> ①地域・小中高との交流及び共同学習の推進を深め、コミュニティスクールの浸透 ②地域のセンター的機能としての支援の充実 ③外部団体や地域資源を活かした P T A 活動の充実 ④学校教育活動の公開や HP を利用した情報発信 	B

	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安心安全な学校づくりに向け、危機管理意識の向上 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA や地域と連携し避難訓練などの体験学習を実施。 ・保健安全や食育指導のための研修の更なる充実と継続。 ・月一度の定期点検や迅速対応による施設・設備の環境の確保。 ・感染症対策の継続と迅速な拡大防止対策。 	I-①②③ ④ III-③	B	<p>○計画的な環境整備及び防災学習や訓練、地域の方も参加しての避難所設置訓練、安全な食事指導に向けた研修等を実施し、安全安心な学校作りに向けて意識を向上させることができた。</p> <p>●校内の警備体制の充実</p> <p>◇校内警備体制の見直し</p> <p>●地域の方々と連携した安全管理体制の更なる充実。</p> <p>◇全学年での引き渡し訓練の実施、地域の避難所を想定した避難訓練の継続。</p>
教職員の 育成及び 指導・監督	・教科の見方・考え方の視点の授業改善研修実施 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックや学年での研究協議の内容の校内共有。 ・児童生徒一人一人の個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成による、RPDCA サイクルに則った目標設定。 ・教科の「見方・考え方」の効果に係る検証の実施・研究協議への参加と助言。 	II-①②③ ④	A	<p>○教育課程を改善し、評価しながら実践した。</p> <p>○児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の定着と活用に向けて、計画訪問と関連付けながら教科の見方・考え方を鍛える視点での学校研究を実施した。</p> <p>●中長期的なスパンで意図的に児童生徒の資質・能力を確実に育む実践の深化。</p> <p>◇効果的な単元計画の設定についての学校研究。</p>
対外活動	<p>①さかたくインクル連携協議会による取り組みの充実 100%</p> <p>②学校運営協議会による地域とのつながりの体験的活動の強化 100%</p>	<p>①学区内幼・小・中学校への丁寧な事業説明の実施。</p> <p>①「さかたくインクル連携協議会」の内容の改善充実。</p> <p>①学校公開に合わせての研修会の実施と教材教具の紹介。</p> <p>①小・中学校との職員交換研修の実施。</p> <p>②参加形態を協議しながら体験的活動の実施。</p> <p>②交流活動の推進。</p>	II-④ IV-①②③ ④	A	<p>○さかたくインクル協議会では委員による活発な意見交換を行った。相互の授業体験や自立活動の等研修を実施。地域の学校等での授業改善につながった。</p> <p>○学校公開を3回実施。授業公開の他、懇談会を実施し、地域の特別支援教育の質の向上を図った。</p> <p>○地域交流活動の運営の仕方について学校運営協議会で積極的な提案を得ることができた。</p> <p>○さかたくサポーターとの地域交流では、交流前の打合せを充実させ、体験活動の質の向上につながった。</p>

コンプライアンス確保	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事 0 件。 ・アンケート集計結果で意識改革 100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修とコンプライアンスミーティングの学年単位等での意見交換しやすい場の設定を行う。 ・事例や新聞等での情報の周知（随時）。 ・クラスルームでの情報の共有。 ・自分事としての意識向上について話し合う場の設定を行う。 	Ⅲ-④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に各学年でコンプライアンス推進に関する研修を実施。研修資料等も周知し、職員の倫理観・規範意識の向上が見られた。 ●ヒヤリハットの事例報告数が増したが、学部学年によって偏りがある。 ◇ヒヤリハット集約や共有の工夫。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働の減少 ・年間 360 時間以上の時間勤務者 0 人。100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤時間の徹底と完全退勤時間の厳守。 ・会議前に内容の確認徹底と会議時間の終了時間の周知。 ・ICT 機器の活用とスプレッドシートによる記録時間の削減。 ・教材データの再利用の推進。 	Ⅲ-①②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○Google Workspace を活用し、効率的に業務を行っている。 ○勤務時間内での会議を徹底した。18:30 の完全施錠時刻の周知と、毎週末の提示退勤を促し、年間 360 時間以上の時間外勤務者は 0 人。
ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の教材・教具や補助具としての有効な活用数増加。100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌担当者と連携し、効果的な利用方法の具体例やアプリの紹介を定期で行う。（他校での情報収集も含む） ・授業改善研修の中で、有効な効果の事例を収集し、職員共有とする。 ・学習場面に応じた効果的な AI の活用を取り入れる。 ・高等部 BYOD 端末整備の拡充。 	Ⅱ-①② Ⅲ-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT を活用して日々の情報共有や会議を効率的に行った。 ○学習場面では一人一台端末を、学習のねらいに合わせて活用し、個別最適な学びを推進した。 ○会議記録の作成や資料まとめ等に Gemini や NoebookLM などの生成 AI を効果的に活用。 ○教材作成や学習場面において CANVA を活用し、柔軟な学びにつながった。 ●情報リテラシーや情報モラルの向上を図る教育の充実 ◇発達段階や生活年齢に応じた計画的な情報リテラシー・情報モラル学習の実施。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない